

**製品名: CD249 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08308**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	110kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ENPEP
別名	ENPEP; Glutamyl aminopeptidase; EAP; Aminopeptidase A; AP-A; Differentiation antigen gp160; CD249
遺伝子 ID	2028.0
SwissProt ID	Q07075
免疫原	抗血清はヒト ENPEP の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 671-720

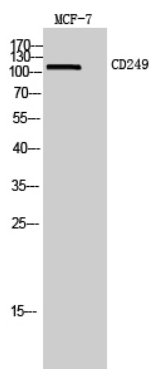
**背景**

触媒活性: ペプチドから N 末端グルタミン酸 (および少量のアスパラギン酸) を遊離する。補因子: サブユニットあたり 1 個の亜鉛イオンに結合する。機能: レニン-アンジオテンシン系の分解経路において役割を果たすと考えられる。おそらく、初期 B 細胞系の増殖と分化を制御する役割を果たす。類似性: ペプチダーゼ M1 ファミリーに属する。サブユニット: ホモ二量体; ジスルフィド結合している。組織特異性: 近位尿細管細胞およびネフロン糸球体上皮細胞に発現する。様々な組織にも存在する。触媒活性: ペプチドから N 末端グルタミン酸 (および少量のアスパラギン酸) を遊離する。補因子: サブユニットあたり 1 個の亜鉛イオンに結合する。機能: レニン-アンジオテンシン系の分解経路において役割を果たしていると考えられる。おそらく、初期 B 細胞系の増殖と分化の調節に関与している。類似性: ペプチダーゼ M1 ファミリーに属する。サブユニット: ホモ二量体; ジスルフィド結合している。組織特異性: 近位尿細管細胞およびネフロン糸球体上皮細胞に発現する。様々な組織にも存在する。、

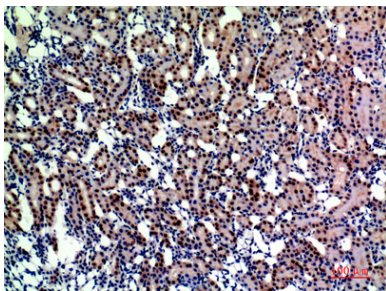
## 研究分野

レニン-アンジオテンシン系;

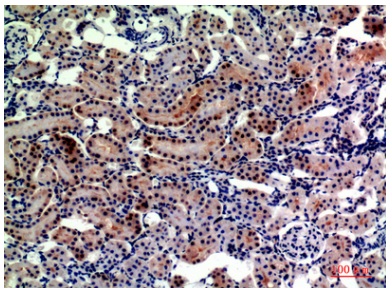
## 画像データ



CD249 ポリクローナル抗体を用いた MCF7 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



パラフィン包埋ラット腎臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ラット腎臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された